

会 議 録

会 議 名	平成23年度三者合同会議兼第3回小金井市公民館運営審議会		
事 務 局	公民館		
開 催 日 時	平成23年11月25日（金）午後2時から午後3時半		
開 催 場 所	市役所第二庁舎8階 801会議室		
出 席 委 員	（公運審委員） 佐々木委員長 藤井副委員長 山田委員 小島委員 立川委員 大津委員 亙理委員 神島委員 宮澤委員 （社会教育委員） 本川議長 伊藤副議長 松田委員 佐野委員 樹委員 本多委員 倉持委員 小林委員 中村委員 （図書館協議会委員） 松尾委員長 江端委員 小林委員 櫻井委員 大森委員 坂井委員 ※図協委員の小林委員は社教委からの出向のため、同一人物		
欠 席 委 員	（公運審委員） 佐野委員 （社教委の会議） 田尻委員 （図書館協議会委員） 中川委員 荒井委員 根本委員 浦野委員		
事 務 局 員	天野生涯学習部長 尾崎生涯学習課長 図書館長 スポーツ振興担当課長 渡辺事業係長 山崎庶務係長 上石図書館奉仕係長 林生涯学習課主事		
傍 聴 の 可 否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第	1 本会議趣旨説明 2 三者委員の紹介（各委員長） 3 報告 (1) 2011「青少年のための科学の祭典」東京大会 in 小金井への参加について（伊藤社会教育委員の会議委員） 4 討議 (1) 情報ネットワークについての報告（本川社会教育委員の会議議長） (2) 質疑応答 (3) モデル提案（藤井公民館運営審議会委員） 5 配付資料 (1) 小金井市生涯学習センター創設に向けて（第25期社会教育委員の会議まとめ） (2) 第30期小金井市公民館運営審議会活動報告 (3) 小金井市地域教育会議－市民が提案する設立と運営の方針－（提言）－ (4) 各委員名簿 (5) 「月刊こうみんかん」 10、11、12月号 (6) 「図書館だより」第23号 (7) 市民活動団体リスト関連資料		

会 議 結 果

山崎庶務係長 本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。開催に先立ちまして、事務局の方から本日の配付物の確認をお願いいたします。まず、本日いらしている皆さんのお名前が分かるものとして、三者各委員の名簿3枚、次に各委員の活動内容が分かるものとして、第25期社会教育委員の会議のまとめ、「小金井市生涯学習センター創設に向けて」、「第30期小金井市公民館運営審議会活動報告」、それから今回の三者のネットワークの必要性について書かれている関連資料として、社会教育委員の会議で作成された「小金井市の地域教育会議－市民が提案する設立と運営の方針(提言)」、各所管課で定期的に発行しているものとして、公民館発行の「月刊こうみんかん 10, 11, 12月号」、こららには、新規の公民館運営審議会委員の自己紹介、今回三者で初めて参加いたしました学芸大学で開催された「科学の祭典」の写真入りの記事及び公民館の利用方法についての説明が掲載されておりましたので、ご参考までに配付させていただきました。そして、図書館発行の直近の情報誌「図館だより」第23号です。最後に、市民活動団体リスト関連資料です。もし不足の書類があるようでしたら、事務局にお申し出願います。よろしいでしょうか。

渡辺事業係長 あと1点、訂正ですが、次第4討議の(1)「情報ネットワークについての各委員からの報告」は、「各委員からの」の部分を省略くださいますようお願いいたします。

山崎庶務係長 それでは、今年度当番であります公民館運営審議会の佐々木委員長の司会により進行させていただきますので、よろしくをお願いいたします。

1 本会議の趣旨説明

佐々木委員長 定刻になりましたので、三者合同会議をはじめさせていただきます。
(公運審委員) 三者合同会議は、社会教育、生涯学習に関わる社会教育委員の会議委員、公民館運営審議会委員、図書館協議会委員の三者が、従来懇談会という形で、共通の課題について議論を重ねてきましたが、よりフォーマルな形で、公式に議論をしようということで、三者合同会議という形に形態を発展させて、協議を行っているものです。従来から、三者間では、「情報ネットワーク」の在り方について議論をしてきましたが、これらの議論は、社会教育委員の会議を中心に先行的になされてきたもので、そのような問題提起を受けて、公民館運営審議会、図書館協議会とともに、議論を進めてきました。しかしながら、それぞれの会議が、それぞれの認識でこの問題を捉えているために、「情報ネットワーク」の議論がどのような背景で登場したのか、その意味は何であるかについての共通理解を欠いていたために、議論の深まりを欠いていたように思います。そこで、本日の会議では、社会教育委員の会議の方から「情報ネットワーク」の基礎となった考え方等について、説明をいただき、この問題について共通認識を持つことを本日の主眼としたいと思います。

本日は、各委員の方々が改選直後でもあり、新しい委員の方もおられますので、分からないことについて率直に質問いただくなど、楽な気持ちで、会議に臨んでいただければと思います。

2 三者委員の紹介

佐々木委員長 (公運審委員) それでは、委員の紹介に移りますが、人数も30名ほどおりまして、時間がかかりますので、それぞれの委員長、議長から、名簿に沿って、お名前をご紹介いただきたいと思います。それでは公民館運営審議会委員からご紹介いたします。(名簿を参照していただきながら、藤井哲彦委員、小島敬子委員、山田健二委員、立川明委員、亘理千鶴子委員、大津智子委員、神島せつ子委員、宮澤もと子委員の8名を紹介。)

本川議長 (社教委員) 社会教育委員の会議委員を紹介します。(同様に、伊藤徳興委員、松田育子委員、佐野郁蔵委員、樹一美委員、本多正子委員、倉持伸江委員、小林智恵子委員、中村彰宏委員の8名を紹介。)

松尾委員 (図協委員) 図書館協議会委員を紹介します。(同様に、江端寿子委員、小林智恵子委員、櫻井ゆかり委員、大森直樹委員、坂井悦子委員5名を紹介。)

3 報告 2011「青少年のための科学の祭典」東京大会 in 小金井への参加について

佐々木委員長 (公運審委員) それでは、「青少年のための科学の祭典」に今年初めて三者で参加いたしましたので、これについてご報告いただきたいと思います。

伊藤委員 (社教委員) 三者が「地域のネットワークづくり」に向かって取り組んでいく第一歩として三者合同で出来るワークショップとして「青少年のための科学の祭典」に合同出展してはどうだろうかということで、2011年5月の三者懇談会の席上で提案させていただき、各委員会で持ちかえって他の委員の方の御意見も聞いた結果、ご賛同いただき、出展するはこびとなりました。そのための具体的な進め方については、2011年6月10日に各委員会の出展担当者会議を開催し、ブースの大きさ(スペース)、展示内容、申し込み方法、費用補填等々を決めました。

出展内容については、「月刊こうみんかん」の11月1日号を参照いただければ、写真も掲載されているので、様子もお分かりいただけるかと思えます。開催当日は、図書館、公民館のブースは盛況でした。今年の見学者は約8000人、ブースは121と年々盛況さを増しています。1日で終わるのは誠にもったいないと思えます。社会教育委員の会議で出展した科学実験キットは、ある小学校から昨年に引き続き貸してほしいとお申し出があり、来年3月まで貸出中です。

藤井委員 (公運審委員) このイベントに初めて正式に参加しました。大橋前委員長と山田委員と山田委員が、小中学生向けの科学実験を行い、かなりの参加者を集めました。また、教室の壁には、各公民館の小中学生向けの講座内容を手書きのポスターで案内しました。ご覧になった父母の方々からは、「こんな良い講座もあるんですね。知りませんでした。」と関心をしめされた声も多数寄せられました。

山田委員 (公運審委員) 当日は、委員のみでなく、市内の科学技術高校(旧小金井工業高校)のボランティアの生徒が手伝ってくれ、実験のしくみを子ども達に説明してくれたりしたので、楽でした。子ども達は楽しんでくれたようです。

佐々木委員長 (公運審委員) ありがとうございます。何か補足がありましたら。無いようですので、次の議題に移りたいと思えます。

4 討議

(1) 情報ネットワークについての報告

(2) 質疑応答

佐々木委員長 (公運審委員) それでは、社会教育委員の会議の議長から、「情報ネットワーク」の基礎となった考え方等についてご説明をお願いします。

本川議長 (社教委員) 本日配付されていますこの冊子「小金井市生涯学習支援センター創設にむけて―第25期社会教育委員の会議のまとめ―」を作成するにあたり、社会教育委員の会議ではこういうことを検討していますということで、皆さん方の後押しが是非必要ですので、三者で協力した形でまとめを出したいというふうに、定例会の場では、確か要望として申し上げたと思うのですが、現実には、最後のまとめは、非常にタイトなスケジュールの中での作業になりまして、皆さんの定例会にお諮りする時間がなかったということで、要望は叶わず、申し訳ないことになっております。

次回には、何か少し先に先に進めておくことができるのであれば、是非皆さん方と三者で何かまとめができたらいいなというのが社会教育委員の希望でございます。

大変雑駁な感じを受けるかと思うんですけども、このまとめの中で、多くの市民のニーズに応えるためには、横の繋がりや整理、いわゆる情報のネットワーク化とそれに伴う拠点構想の実現が是非必要であることを述べさせていただいています。

佐々木委員長 (公運審委員) まとめの冊子の中では、地域全体のネットワークの構築を提案している話でしたので、そういうふうに射程を広げて、話を聞かせていただけませんかでしょうか。

生涯学習センターの創設、すみません。私から質問させていただいてよろしいでしょうか。生涯学習センターの創設に向けてというのと、地域のネットワークの必要性につながる経過がどうだったのかなということについてご説明いただけますでしょうか。

本川議長 (社教委員) これは、最終的に、そういうものをまとめ上げたときに、場所がやはりどうしても必要なだろうということなんです。ですから、そこまでいくまでの間のネットワークをどう構築していったらいいんだろうということは、まだまだ検討中ということでご理解いただければいいと思っています。

箱物というふうに考えていただくと、非常に大きなものになってしまいますので、なかなか実現は難しい。ただ、場所というふうに考えていただくと、少しわかりやすく、取り組みやすいかなと考えさせていただいております。

佐々木委員長 (公運審委員) はい、どうぞ。

亘理委員 (公運審委員) はい。間違っていたら、訂正していただきたいのですが、以前、10年ぐらい前、市の教育委員会が、まだ2つに分かれていないときですね。その頃は、学校教育と生涯教育に分かれたときが、まさに(第25期社会教育委員の会議のまとめ2ページ)のセンターの目的①でおっしゃっていることをするために、今年度から生涯学習部を置きますということで分かれたと思うんですね。それで、各部に、学校教育部長さんと生涯教育部長さんが置かれて出発したと思うんですね。そして、生涯学習部を置くに当たっての目的もこのセンターの目的①だったと思います。部長さん、違いますか。

(生涯学習部長は、局議出席のため、途中退席にて不在)

佐々木委員長 (公運審委員) 亘理委員さんは、前、教育委員さんもされていたということで、今までの流れを踏まえてご説明いただけますか。

本川議長 (社教委員) ちょっとよろしいですか。そうだったんじゃないかというふうには思います。現実には2部署がはっきりあるわけですから。なんです、このスポーツ情報はスポーツ振興担当課が持っているし、生涯学習部が持っている情報というの、それとは別にたくさんあるんですね。でも、福祉協議会が持っている情報もたくさんあるし、NPO団体が、それぞれで持っているところ、それから体育関係の団体が持っている情報、そういうものをたどっていけば行き着くところはあるんですけども、でも、市民がここにたどり着きたい、私は何かをしたいんですけども、どこに何がありますかというときに、情報というのが、割合手軽に、アドバイスをしながらやれる場所というのが、あまりないのではないかと、見えないと。表立って見えないと言ったほうが正確かもしれませんが、そんなことがあります、ということでございます。

佐々木委員長 (公運審委員) 行政レベルでのネットワークというものとどまらないですね。

本川議長 (社教委員) できればですけどね。

佐々木委員長 (公運審委員) 福祉部門とか、いわゆる家庭教育とか、そういったものも含めた広範囲のネットワークをということですかね。

本川議長 (社教委員) そういうことを希望はしております。

藤井委員 (公運審委員) ちょっといいですか。最終的には、生涯学習支援センターをつくらうという、まず、大目的があるわけですね。これ自体は、急に言ったって、急にできるわけじゃないと。だから、つくる前に情報ネットワークをつくっていきこう。それで、平成何年かに生涯学習支援センターがちゃんと看板つけて、スタッフもちゃんと常駐してできて、そういうときには、学習支援センターが情報ネットワークをそのまま引き継いで、普通の市民活動の中で、そのまま継続的にというふうなイメージをしいいんですか。

それとも、でき上がっても、その情報ネットワークはどんどん、ネットワークとしては成長をやっていくなり、数年前に活動をやめてしまったところは、そこで切っていくなり、そういうふうにも考えてもいいわけですか。

本川議長 (社教委員) 結果的にはそうなるんでしょうね。そういうふうなことをする部署なり人なりがないと、これは成り立たないと。情報を集めただけではしようがない。

藤井委員 (公運審委員) それはどっちのほうが。支援センターが成り立たないということですか。

本川議長 (社教委員) いえいえ、そうじゃなくて、場所があつて、情報があつても、そういう情報の更新というんですか、そういうものをやれる部署なり、人なりがないと、それは継続は難しいだろうと。要するに、古いものがずっと、ただ残っているだけなので。

藤井委員 (公運審委員) それはわかりますよ。だから、まず、情報ネットワークはつくってみようという段階で、生涯学習支援センターのスタッフの方々が、実際にその情報ネットワークをつくってという考え。それとも、もっと平たく

言えば、NPOでも何でもいいですよ。ああいうところに、要は情報ネットワークを何かつくりましょうよと言って、そこで実際にキーワードでつくっていただくと。これができて、活動して、ネットワークが市民の間に根づいていって、これは使えるぞとなった暁というか、そういう段階で、支援センターをつくるというふうに考えておいてもいいですか。

本川議長
(社教委員)
藤井委員
(公運審委員)

いや、個人的にはいいと思いますけれども。というのは、先にありきだと無理なんですね。今の状態ですと。絶対無理なんです。

それが無理かどうかは、また別問題にしましょうよ。

本川議長
(社教委員)

いやいや、ちょっと無理なので、この間の三者懇談会のときに、それぞれが、例えば公民館が集約していらっしゃるアンケートですか、各団体へのアンケート、それから図書館が持っているいらっしゃるもの。生涯学習のほうで持っているもののフォームが、みんなそれぞれバラバラでしたよね。やっぱりそこら辺のところから、一つ精査していけると、必要なものと、それから、共通に必要な必須事項みたいなものがありますね。それから、各、特徴のあるものといいますか、そういうものを加えなければいけないところとか、そんなようなことから始められるといいのかなということはちょっと思っておりますが、さっきおっしゃった情報をまとめましょうというのは、この中、「小金井市地域教育会議－市民が提案する設立と運営への指針（提言）－」にも書いてあるんですが、あまり膨大であって、なかなか一遍にはできないことなので、少しずつ、核が三者であったら、その先に、少し関係の皆様もバックボーンを持っていらっしゃるわけですから、そういうことも必要なものであれば書いていただいて、情報が提供できるかどうかということを考えていくということをしていくといいのかなと思います。

佐々木委員長
(公運審委員)

よろしいですか。ほか、いかがでしょうか。

伊藤委員
(社教委員)

こういうふうに考えることできませんか、今のお話。いろいろな各部門、いろいろな分野の情報が集まってまいりますね。そうすると、この集まってきた情報を整理していくというか、分野別に分類していく段階で、自然発生的に、これはいわゆる文化活動ジャンルの情報だとか、これはスポーツ関係のジャンルの情報だとかというふうに、自然発生的に色分けができるような状況になるのではないかとこのように想像しているわけです。

そうしますと、そういったものを、今度は専門的に扱う場所とか人が、当然必要になってくるでしょうと。当然、今度はそういった情報に対して、一般市民の方々から、いろいろな問い合わせが入ってくると思うんですね。それに対する相談というか、あるいは思っていることなどを、例えば、ちょっとこういうことじゃないんでしょうかとか、あるいは、じゃ、そういうことでしたら、どこどこの、こういう先生がおいでのになるから、そういう先生を紹介しますからご相談してみてくださいとかというふうな、そういうふうに自然発生的になっていくんだらうというふうに踏んでいるんです。

藤井委員
(公運審委員)

それはどなたがするわけですか。

伊藤委員

だから、そういう自然発生的になってくると、どうでしょうかと。こ

(社教委員) こで初めて、おそらく、おそらくですよ、我々三者の人たちも、それから行政も、ここで、じゃ、やっぱりやらんといかんわいと、小金井はやるよということになると思うんです。

藤井委員 その対応する人をね。

(公運審委員)

伊藤委員 私は、そういうふうに、何ていうのかな、善意にといたらおかしいけど、発展的にとらえているんです。自然発生的にそうなるはずだと踏んでいます。回答になっているかどうかわかりませんが。

藤井委員 わかりました。

(公運審委員)

佐々木委員長 どうぞ。

(公運審委員)

神島委員 センターの目的と書いてあって、1、2と書いてありますので、このとおりに、素直に読んで咀嚼しながら、あとは目的に沿って、我々三者がどのようにしたらいいかの行動に移るときだと思うんです。それで、建物をでき上がらせようとか、どうしようじゃなくて、すぐには、そんな、何かつくろうといっても無理ですので、お互いに情報交換し合いながら、この目的に沿った形で、一歩でも前に動き出す力のもとをつくっていったらいいかなと私は思うんですが、いかがでございましょうか。

佐々木委員長 うんうんといって、皆さん、うなずいていらっしゃるんですが。センターというのは、予算も相当必要とされて、すぐにというふうにはないということなので、とりあえずセンターを提言されているんだけど、将来的に、それに結びつくにしても、今の我々のキーをどういうふうにつくっていくかということの関係だというふうに理解していますけれども。

本川議長 なので、それだからこそ、三者の皆さんのお考えをたくさん聞きたいし、伺いたいし、実際にやっていらっしゃる中での不便さとか、便利さとかいうようなことも集めていきたいし。というようなことになりませんか。

ですから、ステップは幾つかあって、近々のものが三者懇を2回にし、それから、「科学の祭典」に三者で参加したように、みんなで何かイベントでもできたらいいかなと。そういう短期、中期、それから長期、その先というような形で、とても、この2年間で、私どもの今の任期の2年間ではできないかもしれないけれども、1ステップ、2ステップは上がっていきけるような有意義な会議になっていくといいなと希望してはございます。

佐々木委員長 平成19年に社会教育委員の会議の方が提言で出された「小金井市地域教育会議」の冊子を、私も今日こちらに来る直前に、先ほどマクドナルドで読んでいたんですけれども、えっ、こんな構想もあったんだと初めて知ったのですが、ちょっとこの辺についても、社会教育委員の方に簡単にご紹介していただければよろしいですか。

伊藤委員 それを作成した当時の社会教育委員が、現在のメンバーにはおりません。

(社教委員)

本川議長 おりませんのと、それから、ちょっとこの計画を読んでしまうと、あまりにも規模が大きくて、今、私どもが考えているところからほど遠い感じなんです。ですから、これが最終的に実現できることを念頭に置

いたスモールステップでいいから現在やっていきたいなというのがあります。そして今、心がけておりますのが、福社会館の耐震構造でしたか、市役所の移転とか、それから貫井北町地域センターができるに当たっての本町公民館の処遇がどうなるかとか、それから、東小金井の駅前、北口開発、あちらが、これからまちづくりの構想に出ていますので、そういうところで、何か情報が得られないかなとか、希望が言えないかなとか、いろいろなことで、それこそ自分のネットワークのアンテナを張りめぐらせながら、社会教育委員の会議は、それぞれが動いているということでもあります。

佐々木委員長
(公運審委員)

「小金井市地域教育会議」の13ページに、イメージ図があるんですが、今、生涯学習関係の連携を三者でやっているわけですけども、それよりも、もっと大きな学校教育も入れて、それから、社会教育も、市民団体も入れてという、そういう大きな地域全体の教育をみんなで考えるようなシステムを構想されているので、ある意味、生涯学習推進支援センターよりももっと大きな構想も前にあって、あらゆるもの、地域を丸ごと考えていこうというふうな構想もあって、その一つ下の次元で生涯学習支援センターというものが考えられると。さらにもっとベースの時点で、今、我々がどうやって連携しようかという議論をしているところ、今、我々はいろのかなという認識でよろしいのですかね。

本川議長
(社教委員)

はい、おっしゃるとおりだと思います。どういうことで連携ができるか。そして、その先に、どういうことができるのかということ、合意に達するというんですか、そんなふうなことがテーマに考えていただくと少し。それぞれの公民館なら公民館、図書館なら図書館のなさらなければいけないことがあるんですが、その中に、少し、そういうものを入れていただくとありがたいかなと今感じますけど。

神島委員
(公運審委員)

そういうものというのは、地域全体の市民の考え方とか、具体的に、こういうものというところに、一つ線を引いていただくと、目的がはっきりするのですが。先生がおっしゃったように、イメージ図にある、学校とか家庭とか、そういったものも含めると膨大ですよ。

本川議長
(社教委員)

なので、やれるところからということ。

小島委員
(公運審委員)

よろしいですか。

佐々木委員長
(公運審委員)

はい、どうぞ。

小島委員
(公運審委員)

今、神島委員のほんとうにおっしゃるとおりで、うなずいていたんですけども、今日配られた資料に、「公民館利用団体の皆さん、市民活動団体等リスト作成にご協力を」って、これがあるんです。難しく考えたり、膨大に考えたりする前に、例えば公民館とか社会教育の関連団体とか、図書館協議会さんだと、関連団体少ないかと思うんですけども、そういうものの絞り込みというか、リストアップの方法という言い方もできると思うんですけども、絞り込んで、できるところから、どの程度の情報を公開するのか、そして、リストアップを集めるのかというのを絞り込んで、ほんとうに最初の一步はそこで、それができたら、今度は、じゃ、どうやって公開するのか。予算がつけば、紙媒体ってすごく無視できないので、紙媒体を、商店街とか医師会にお願いして、病院の

待合室に置いてもらうとか、そういう考えたいのもあるし、また、ホームページの構築というようなところまでも進んでいけるし、何か今、神島さんがおっしゃっていたように、膨大になる前に、そういうできるところから絞り込んで一步を進めたほうが、何かいいように私は思うんですけれども、いかがでしょうか。

山田委員 (公運審委員) 質問というか、意見というか、疑問というか、よくわからないんですけれども、今さっき言われた「市民活動団体等リスト作成のご協力を」というのがあって、これが何か小金井市役所コミュニティ文化課が中心でやっているみたいを書いてあるんですね。そのほかには、小金井市の第4次基本計画の中を見ると、地域情報ネットワークの推進というのがいろいろなところに出てくるんです。例えば絆を結ぶまちづくりプロジェクトの中にも出てきますし、まちのにぎわいプロジェクトというところにも、同じようなことが出てきますし、だから、小金井市の中で、いろいろなところ(部署)が、ほぼ同じようなことをやっているんですね。我々も何かやっていて、そこら辺が、何をどこでまとめることが必要なと。

だから、ここでもやっている、ここでもやっている、あそこでもやっているというような感じになっているので、それをどうするのかというのが、ちょっと微妙なところなんです。三者合同会議の立場というのは何なのかという。

倉持委員 (社教委員) この資料は、どういう趣旨で配付されたのですか。

佐々木委員長 (公運審委員) それは多分、この後の、それを例として使おうと思って、まさに今、ご発言の趣旨で配った、例えばこういったものをみんなで汎用化、共通化しようとかという話で例として挙げる予定だったかと思います。

渡辺事業係長 (公民館) どうしますか。今ご説明いたしますか。

佐々木委員長 (公運審委員) 倉持先生のご質問は、多分皆さん聞きたいことだと思うので、後ほど説明されるかと思いますが、すいません。ほかにないでしょうか。

山田委員 (公運審委員) よろしいでしょうか。ちょっと参考までに。今日、私、あることで、ある団体のホームページを検索したんですけれども、そこが何かそういう情報ページをつくっていて、だから、こういう関係の団体、こういう関係の団体、私、自然保護団体をやっているの、自然関係の団体とか、何かいろいろな団体に分類して出ていました。けども、全然情報が古くて、更新がされているのかなという気はしましたけれども、何かそういうものも参考になるかなと思うんです。参考までに。

神島委員 (公運審委員) 先生、もう一点、よろしいでしょうか。

佐々木委員長 (公運審委員) はい。

神島委員 (公運審委員) 大体私どもの機関は教育委員会に属していますので、共通して言えることは、学びの場をお互いに持ち合わせているということなんですね、図書館にしても公民館にしても教育委員会。したがって、そこら辺をきちっとわきまえて進んでいかないと、町全体をといても、学習の場から離れたものに対して、何とかの会議が全部入って網羅したらいいというのは、私はそれはマイナスだと思うんですね。やっぱり学習の場を通

して学べるような者同士が集まって、地域の生涯学習全体を底上げできるようにっていったら理想かなと思っております。

佐々木委員長
(公運審委員)

はい。

倉持委員
(社教委員)

私も今おっしゃる意見に賛同なんですけど、今、既に小金井市では、市民活動のほうのセクターで、市民と協働の準備室みたいなのが動いて、似たようなことを、市民活動とかNPOのほうのセクターでは準備室ですけれども、やっているということなんです。生涯学習とか学び、学習が、1つの教育とかを1つのコアにして、核にして。でも、そうかといっても、厳密にどこどこで線を引くとやり出すと、事、学習な分、線引きだけの議論で終わってしまうような部分もあるので、今の活動、皆さんが持っていらっしゃるネットワークのところから少し試行的に取り組むという、まさに行動しながら少しやったほうがいいんじゃないかというのが社会教育委員の中での議論だったんです。

さっきのインターネットとかネットワークもそうなんですけど、他市の状況なんかを見ても、こういう人材バンクだったり、あるいは団体情報の登録だつたりを予算をかけてネットワークをつくってやるんですけど、やっぱり立ち上げ期だけなんです。情報を集めてそれを登録するというのは。情報はどんどん古くなってしまふので、活用されずに、結局そうすると集めもできなくなってきますし、利用もできなくなってくるといふふうになって、すごく活用の難しさというのはどこでも言われて、そう考えると、今言った情報の収集ということこれからやるのと同時に、活用の仕方も同時に少し考えるなり、行動していくなりしていかないと、やっぱり立ち消えとって、とてもセンターまでは行かないというか、どう収集するか。

既に小金井にはかなり熱心な活動をやっているところも、歴史の長い、地域に根差した活動というのはたくさんいろいろな団体さんがやっていますし、公民館を拠点にした、図書館を拠点にしたという活動がたくさんあると思うんですけど、似たような活動をしていても、なかなかつながらないとか、だんだん人が減ってきてしまうとか、新たなことをやりたいけどどこに相談していいかわからない、公民館はなかなか入りづらいみたいな声も聞いたり、いろいろやっぱりあるじゃないですか。新しく引っ越してこられた方がどういうところに行つて、例えば学びたいと思ったときに、自分の得たい情報を得る場なんていうのは、なかなか、まだ少しハードルがあるんじゃないかみたいなことも社会教育委員の中では議論をしていて、そういう部分と、既に長年活動されてこられた方たちの力を生かして、もうちょっとつなげていけないかという部分と、両面が少しあるということをお話して。どう集約するかという議論と同時に、どうそれを生かすかとか、そういう人たちにどう手を貸してもらおうかとか、一緒になって議論したり、あるいは少し検討、グループを分けてなのかもしれないですけども、動いていけるといいねなんていうことを話してはいましたという感じなんですけど。

佐々木委員長
(公運審委員)

確かに、どう変えるかという議論だけじゃなくて、今、一生懸命やられて、もう基盤を持っている活動をどういうふうにかかしていかという視点も同時に考えてもらいたいということですね。

(3) モデル提案

佐々木委員長　それでは、時間が迫ってきて、藤井委員に、例えばこんなことも考えられるんじゃないかということいろいろ考えてきていただいたので。ちょっと話しづらい雰囲気がありますが。

藤井副委員長　ただ単に問題を考えてみましょうかと、ごく単純な発言が、こういう重い議論の後から出すのはちょっと難しいかもしれないんですけども、ちょっと聞いてください。

まず、今まで僕ら情報ネットワークをつくる側から考えてきたんですね。ところが、ここで情報ネットワークを利用する側の立場、いわゆる一般市民の方々の目線で考えたらどうなるんだろうかという局面で考えて、と思うんです。そうすると、どんな内容なら見るだろうか、それから、どんなものがあれば利用するだろうか、この2点か1点になると思うんです。

それで、利用の仕方というのは、やっぱり自宅のパソコンなり携帯電話から小金井市のホームページを開いて、キーワードをクリックする。そうすると、クリックしたときに、クリックした人が、思ってるキーワードが出たところの、その画面が、ほんとにどんぴしゃで、ピンポイントでぼんと合えば、つくった側も見た側もハッピーになるわけですね。これをどうするかというところに非常に難しいキーワードのつくり方があると思うんです。

具体的に、僕らの生活の中で考えてみた場合に、まず1個としては、これは全く例ですからね。こんなものをつくりたいというわけじゃないですよ。市内のあちこちの道端に、市民掲示板ってありますね。あそこには合唱団員の募集だとか、少年野球の部員募集だとか、それから各種団体の講演会だとか、フリーマーケットの開催だとか、こういうものが、別に統一性なく並んであるわけです。基本的には、あそこへ、張る前にどこかの部署に集まっているわけですから、これを全部、市民掲示板というタイトルの中に書き込むと。

それで、こういうものは必ず何月何日までにと書いてあるので、これは情報の更新は楽だと思うんです。記録上で何月何日に消えなさいというふうにやっておけば、全部ぱっと消えてしまうんですから、こういうやり方も1個あるでしょう。

ここから出てくる問題として、フリーマーケットということだけで検索すれば、町内会のフリーマーケット、小金井公園のフリーマーケット、それから各大学のフリーマーケット、こういうのも出てくるようには定められます。だから、1個つくればいろんな発想が出てくると思うんです。こういうものを突き詰めていくのが1個のやり方かなと思います。

例えば、もっと言えば、少年野球というところをクリックやれば、何月何日、三小メッツが勝ちましたと、こういう情報を出してやるだけでも、子供たちは非常に喜ぶと思うんです。この辺、子供にしても、両親にやっても、そういう目で情報ネットワークを見てくれれば、1%でも2%でも僕らは勝ったかなと思うんですけどね。

それともう一個は子ども家庭支援、こういうものをクリックした場合に、現在、市役所でやっている子育て相談だとか、専門相談、子育て講座自主グループ、子どもショートステイ、こういうものが出てきて、それぞれにどこが担当していますよとか、簡単な説明があって、最終的に

はどこへ申し込みなさいというものをつくれれば、さっきおっしゃった、これはどこへ聞いたらいいんだろうかという問題が1個解決かなと思います。

それと、これは公民館の立場でいえば、公民館というところをクリックやれば、現在、5館ある公民館の講座の内容がばらばらと出てくる。これも現在募集中ならここからも応募できるというものを考えていけば、有効期限だけを入れれば、その時になれば情報が消えていくから、それで現在の生の情報が出てくるんじゃないかと。

それから、ほかに二、三考えたのは、人材センターというところをクリックした場合、例えばグループや町内会で勉強会をしたいと。こういうジャンルの先生を探しているというときには、そういうところをクリックやれば、例えば学校の先生なり退職者でそういうことをやった人なりが出てきて、こういう方にダイレクトで結んでもらえれば、そういう講師の派遣というのか、そういう者がオーケーする。例えば、町内会で高尾山に散策に行く、そういうときにリーダーというのか、インストラクターが欲しいというときにも、こういうものを利用すれば、ある程度実生活に役に立つのではないか。

それから、図書館の場合でも、僕もはっきり、実は詳しくわからないけれども、今月の新刊はこれだよとか、それから、子供に読み聞かせ会がいついつありますよとか、現在のベストセラー、本館のベストセラーはこれ、緑分館はこれというものを考えれば、ある意味、またこれも市民の目線から見れば、おもしろい情報になるんじゃないか。

ただ、こういうのは難しいのは、要はさっきおっしゃったけれども、どこのだれがこういう情報を最終的に編集するか。データを集めるのはいろいろなができると思うんです。だけど、集まったデータを週刊誌の編集長のようにぴしっぴしっぴしと割っていく、そういう感覚というのか、センスというのか、こういう方がNPOの中におればうまくいくような気がするんですけれども、僕のあまりこういう関係のNPOを知らないけれども、編集長のような、デスク的な人材をどうするか。そういう意味では、人材センターのところをクリックしたら、編集長というものが出来れば一番いいかもしれませんがね。この辺のことが、やるやらんかは別にして、市民生活の中でのことで考えていけば、こういう問題が情報ネットワークの一部門かなと思うんですね。

こういう三者以外にもいろいろなグループがあるので、先ほど最後の問題で出てきたようなところに絶対ぶつかると思うんです。要は、いろいろな活動をしていても、そういうところには入らないよというグループもおるでしょう。多分、長年やっている彼らの自信は当然持っていますからね。そういう人をどういうふうに僕らが口説くかね。入ってくれよと言うのか、入らないなら、あんたいいよと言うのかね、そういう問題もあるだろうし、それと今後、出るか出んかは別にして、今、三者あるわけですよ。一者が、これ、要らんよと、こういう情報はいいじゃないと言ったときに、そういうのをネットワークに載せるかどうか。要は、三者が全部オーケーしたものしか載せないのか、三者のうちのどこかがノーと言ったらどうするんかというケースも、ある程度のことは考えておかないと。その場になってから、いろんな問題が出てくると思うんですね。

こういう問題で、最終的には皆さん方、年に10回前後、会合をお持ちなので、そういう会合の中で、必ず15分ぐらいで討議して、約1年ぐらい討議して、どうにかもう少し具体的な情報ネットワークの中身というものをつかんでいって、ある程度、もっともっと具体的なものをつくっていって、早い段階で市民に発表する。発表するところは、今だったら市のホームページで見るといい。

要は、家庭の中のパソコンとか、個人が持っている携帯電話に僕らの情報が飛び込めるということは最大のメリットだと思うんですね。そういうものを全面的に利用したほうがいいんじゃないかと。それで、パソコンとか携帯電話を持ってない方はどうするのといった場合は、公民館各館には、ITサポートセンター開設時には、一般市民が使えるパソコンがあるので、ここでパソコンを見てもいいだろうし、そういう方法も1つあるのではと思います。

それで、最終的には、要は情報ネットワーク構築、ないしは実施例ということをお我々は教育委員会に提案するというか、提言すべきところまでが最終目標的なものかなということをお、散歩の途中だとか、仕事の途中でぶらぶら考えて、今日ここでこういうふうにお皆さんの前で話したという次第です。以上です。

佐々木委員長 ありがとうございます。

(公運審委員)

佐野委員 それについて意見。

(社教委員)

佐々木委員長 はい。

(公運審委員)

佐野委員 今、お話をされたのは技術論だと思うんです。

(社教委員)

藤井副委員長 はいはい。

(公運審委員)

佐野委員 地域のネットワークというのは、確かにそういうデータを集めて、それを処理して、だれでも見られるようにするという技術的なものと、それからもう一つ大事なものは、そこに行くとお人に会える。要するに、パソコンで打ち出して情報を得たけれども、その情報というのは形になっていないんですね。

藤井副委員長 情報だけですよね。

(公運審委員)

佐野委員 ですから、ほんとうにそれが自分が欲しい形なのかどうかということをお、人と話し合いをしながら納得するといいますか、そういう部分も私は必要じゃないかなと思うんですね。

藤井副委員長 そうです。そこが最終的には生涯学習支援センターに行き着くわけでしょう。そういうふうにお考えるんですよ。

佐野委員 現実には、財政的なものもありますので、一番発達しているのは、これは私の考えなんですけれども、公民館ではないかなと。だから、公民館の役割というのは、非常に重要な役割を持っていると思うんです。たくさんありますよね。

ですから、社会教育委員のほうで生涯学習センターというのをイメージしておりますけれども、そこに行き着く間に、まだ時間がちょっとか

かるのではないかと思うんです。ですから、その間は公民館に、要するに非常に力になっていただいて、将来的には支援センター、現状では公民館というものを活用しながら進めていく、そういうふうにやっていただければ、実質的なそういうネットワークといいますか、そういうものプラス人に会える。

神島委員 (公運審委員) いわゆる、よろしいでしょうか。藤井委員の言っているのは、以心伝心の「伝」は電気の「電」になっちゃうんですよ。そして、やっぱりこちらでいうのは心なの。心をもって心を通じさせないと、伝えないと、やっぱりつながっていかないんですよ。以心伝心という心をもって心伝えるように、お互いに気を配って、少しずつ前進していくことでしょうか。

藤井副委員長 (公運審委員) まさにそう。公民館の場合って、私自身もはっきりわからないけれども、そういう機能を持たせるような時間的余裕とか、人材的な余裕とかがあるかどうか、ちょっと僕の頭の中ではクエスチョンマークです。確かにね、この三者の中でだったら一番近いでしょう。だけど、近いからといって、仮にやってもらって、じゃあ現状いっぱい業務のところこういう業務いうか、仕事をやってちょうだいというのは、相当議論をしていかないと難しいような気がしますね。

佐々木委員長 (公運審委員) そろそろ時間がもう来てしまいましたけれども、藤井委員のほうからは1つの考えとして、例えばデータベースだったらこういうのもあるよと。例えば、物の掲示板というのものもある、掲示板そのものを使ってということもあると思います。それから、先ほど、ちょっとこれは説明する暇はないんですが、公民館の利用団体のリストを集めてみんなで使えるようにしましょうというのものもあるし、取り組みの1つの例としてお話いただいたので、それぞれ戻って、図書館は図書館で、どうしても図書館という図書館だけのことに、我々公民館という公民館だけのことに終始しがちですので、それぞれの現場に戻って、もうちょっと広い視野でつながることの意味とか、今までいろいろな構想があったわけですが、それを念頭において連携いただければと思っております。

まだまだお話ししたいことはたくさんあると思いますが、どうしてもお話しになりたいということがあれば。

小島委員 (公運審委員) 1つよろしいですか。

佐々木委員長 (公運審委員) それでは、小島委員、どうぞ。

小島委員 (公運審委員) すごく簡単なことなんですけれども、藤井委員のおっしゃったことを否定する意味では全くなくて、ただお話が、どうしても電子媒体を入りにするという形でお話をされたんです。でも、私、小金井の人口構成を考えても、町を歩いている、お年寄りをわけながら歩いていますからね。

それで、私、結構おじいちゃん、おばあちゃんの友達が多くて、商店街で立ち話をしたり、東センターの木曜会の情報はおそば屋のおかみさんからもらっているし、それからお惣菜屋さんのところにはいっぱいおばあちゃんたちが集まっているし、靴屋さんのおかみさんの人柄でそこがたまり場になっているとか、商店街ですごく実際のコミュニケーションをとって、電子媒体を入りにするだけでは済まないコミュニテ

イーづくりというものを日々感じているので、それぞれの会に戻って考えるときに、電子媒体以外のところをぜひどこかで考えていただきたいなというのが言いたいことでございます。

以上です。

佐々木委員長
(公運審委員)

それでは、本川さん。

本川議長
(社教委)

社会教育委員の会議のまとめについて、いろいろなご意見あるかと思っておりますので、今後何かありましたら、ぜひ忌憚のないご意見を伺いたいと思っております。

そして、先ほどちょっと申し上げましたけれども、今、2段目ぐらいのところだと思うんですね。その上のところで、三者で何かをやっていくような気持ちがありますかということのを投げかけさせていただこうかと思っております。それを持ち帰られてそれぞれの審議会なり委員会なり協議会なりでお考えいただくとありがたいと思っております。

具体的には何ということではないけれど、三者で、会議の再開はちょっと置いておいて、何かで生涯学習、社会教育ということを念頭に置いた何かを考えることは考えられますかという、はい。ちょっと回りくどい言い方でございますけれども、お考えいただけませんか。お願いですね。今日はありがとうございました。

佐々木委員長
(公運審委員)

よろしいでしょうか。

時間が参りましたので、今日は特に公運審と図書館協議会のほうは初めて委員になられた方が多くて、聞き役に回ってしまったという方も、もっとしゃべりたかったのにとということもあるかもしれませんが、今日は1つ、今までの連携ですね。何で連携が必要なのかということの今までの経緯をご理解いただいたものと思っております。それぞれの組織に戻って活動する際に、今日の議論を踏まえて、ぜひ前向きな視点で取り組んでいただければと思っております。

ちょっとまとめになりませんが、一応、公的な会議についてはこれで終わりにさせていただきたいと思っておりますが、よろしいですか。我々は一応3時半という予定で来ておりますので、一たんここで終わらせていただきます。あと、事務局のほうから何か連絡とかありませんか。

山崎庶務係長
(公民館)

一応今年度は公運審のほうを担当でございますが、来年度につきましては図書館協議会が今度は担当になります。スケジュール等についてご予定がもしあるようでしたら、ご説明をいただければと思っております。

田中図書館長

すいません、ちょっと今予定のお話ということですが、来年の開催の時期はまだ決まっておきませんので、後日ご連絡ということでお願いいたします。

佐々木委員長
(公運審委員)

以上で終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。